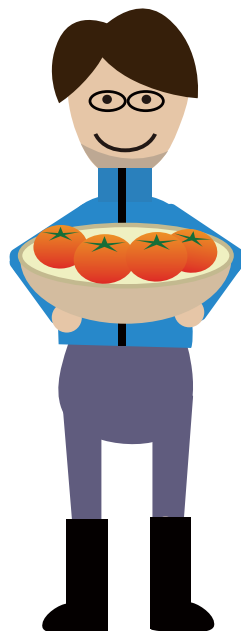
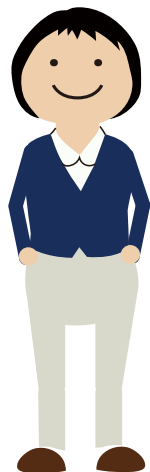
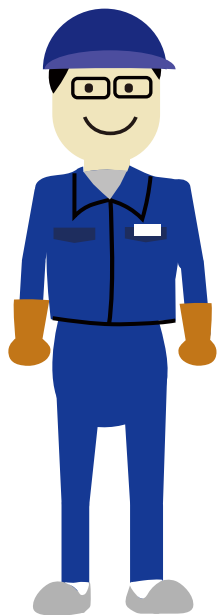


「働くって」? フォーラム

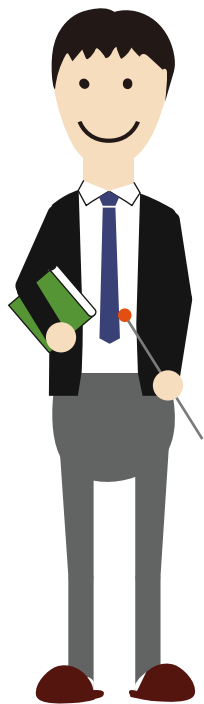


やまがた社会貢献基金
Yamagata Social Contribution Fund



地元で働くセンパイを知ろう!

働くって **サシ** だ?



働かって **ナン** だ?

もくじ

2 フォーラムについて

3 フォーラム 1 回目

9 フォーラム 2 回目

15 アルバム

17 アンケートから

22 発刊によせて

フォーラム (1 回目) に話してくれた先輩パイ

佐藤大介 (明倫中)
土木施工管理技士
永井建設 (株)



早坂 学 (最上中)
機械オペレーター
協和木材 (株)



小野貴之 (最上中)
農家
とまとやよずべえ



三瓶 勇 (金山中)
船頭
最上峡芭蕉ライン観光 (株)



遠藤修二 (狛江第三中)
介護支援専門員
特別養護老人ホーム新寿荘



フォーラム (2 回目) に話してくれた先輩パイ

沼澤聡子 (八向中)
IT 関連会社経営
有限会社ネットコム



三原裕子 (日新中)
作業療法士
介護老人保健施設新庄薬師園



星 利佳 (明倫中)
薬剤師
有限会社メディカほし薬局
新庄最上薬剤師会 会長



中嶋恭平 (最上中)
教員
新庄市立新庄中学校



吉野敏充 (日新中)
デザイナー
吉野敏充デザイン事務所



フォーラムについて

わたしたちがくらしているこの最上地域には、たくさんの小学生や中学生、高校生がいます。

ところが、高校を卒業した人の多くが「最上地域には若者が働けるところや会社が少ない。」と考えて、最上地域で働くことをイメージすることもなく、ほかの地域に出てしまっています。

さらに、いちど出た人はなかなか戻ってこないことで、ふるさと最上でくらす若者が、毎年のように減ってしまっているという課題があります。

このフォーラムは、小学生と中学生のかたがたが、最上地域で働いているおとなから「働くこと」についてのお話を語っていただくことで、ふるさとについての気持ちや、さまざまな職業について豊かな見方ができるようになってほしい、また、地域社会の一員としての自覚をもってほしいと考えて開催されました。

「働くって?」フォーラム
地元で働くセンパイを知ろう!
働くってナンだ?

第1回 11月25日(日) 午後1時30分～午後4時
第2回 12月9日(日) 午後1時30分～午後4時

日時:平成30年11月25日(日) 日時:平成30年12月9日(日)
午後1時30分～午後4時 午後1時30分～午後4時

参加無料 募集人数20名程度(各回) 対象:小学5年6年 中学1年2年
※保護者の方に申し込んでもらいましょう 申込締切:平成30年11月16日(金)

会場:わくわく新庄研修室 山形県新庄市下金沢町15番11号 TEL:0233-23-0197

主催:「働くって?」地元で働く先輩を知ろう! 事業実行委員会
構成団体:山形県最上総合支庁 最上教育事務所 新庄商工会議所 特定非営利活動法人NPOもがみ

平成30年度やまがた社会共創基金協賛事業

↑フォーラムを案内するチラシ

「働くって?」フォーラム
地元で働くセンパイを知ろう!
働くってナンだ?

保護者の方へ

<趣旨>最上地域には、若者が働ける場が少ないと考え、最上地域で働く事をイメージすることもなく、学校卒業後、地域外に出たまま戻ってこない人が多い、という課題があります。このフォーラムは、職業観を形成する初期にあたる小中学生を対象に地域の大人から仕事について話していただき、仕事に対する意識付けを図り、豊かな地域観・職業観を育み、社会の一員としての自覚を生み出すことを目的として開催します。

第1回	11月25日(日): 地元のセンパイ 農業・製造業・建設業などのセンパイを囲んで
第2回	12月9日(日): 専門家のセンパイ 医療福祉・デザイン・教員などのセンパイを囲んで
各回	第1部: センパイは語る 第2部: センパイを囲んでトーク 第3部: 感想発表やセンパイからのメッセージ

働くってナンだ?

参加申込書 (保護者の方も見学できます)
FAX:0233-22-7045
TEL:090-6687-1007 ※ご記入の個人情報は本事業のみに利用させていただきます

希望フォーラムに☑をつけてください	第1回 11月25日(日)	第2回 12月9日(日)
子ども	保護者	学校名
お名前	お名前	学年
ご住所	お電話	

問合せ先:特定非営利活動法人NPOもがみ 新庄市十日町6000-1 エコロジーガーデン内

↑日程の説明や参加の申し込み

フォーラム1回目

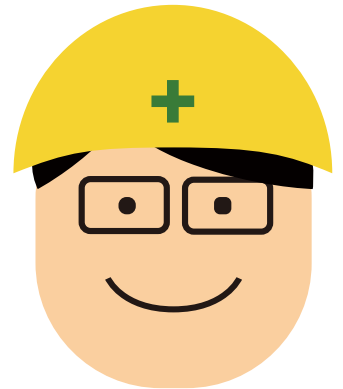
建設のしごと：佐藤大介センパイ



建設業の佐藤さん

子どものころにはデザイナーにあこがれて自分で何かを生み出す仕事がかっこいいなあと思っていました。

父が建設機械を扱う仕事をしていたのを見ていたことで自然に土木の仕事に進みました。家族などのまわりにいる人は大きく自分の将来に影響します。



地域の道路や橋を作る建設業で、工事の内容のスケジュールや順序を考えたり、近くに住む人への説明や書類の準備や作業の安全を管理するなど、工事の全体を取りしきる現場監督という仕事をしています。

建設業には危ないとか汚いという良くないイメージがあるかもしれませんが、今は技術が進んで昔とは全くちがったものになりました。ドローンで空から測量をしたり、人工衛星を使って機械の場所が確認できるようになっているんですよ。

建設は、自分がかかわった工事ができあがった後に地図にのる、誇りややりがいがある仕事です。それに、地域の人の暮らしを支え、地震や水害など災害がおきた時に、ライフラインを守ることで地域の役にたつことができる立派な仕事だと思っています。ぜひ一緒に働きましょう。

「ライフライン」って？

電気やガス、水道、電話など、生活するときに必要な公共サービスをライフラインと言います。食品や燃料が運ばれる道路もライフラインのひとつです。

製造のしごと：早坂 学センパイ

工場で製造機械のオペレーターをしており、近くの県から杉の木を集めて製材し、住宅をつくるときに材料となる柱を作っています。

おとなは生活していくために働かないといけませんよね。働き方や仕事の種類にもよりますが、1年の3分の2ぐらいは働いているという人が多いのではないのでしょうか。

長い時間働かなければいけないですから、仕事の中に楽しみを見つけるのも人生を楽しむ方法なのではないかと思っています。



建材製造業の早坂さん

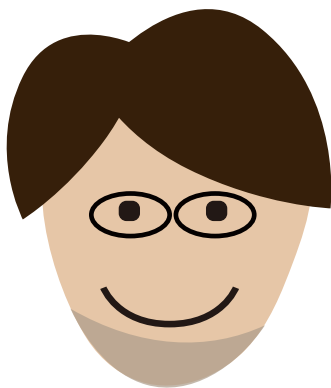
仕事に楽しみを見つけるのはむずかしくはありません。きのうは10分かった作業が今日は5分でできたとしたら、それは一生けんめい集中してやった自分をほめてあげるべきですし、それが喜びややりがいになっていきます。

仕事をする上で趣味の時間も大切だと思います。仕事へのやる気をもつためにもお休みの時間は必要だし、仕事で失敗しても趣味で心のリセットして、また仕事に向き合えるという、良い関係なのだなと感じています。

釣りやスノーボード、スノーモービルなど、最上地域でできる趣味を持っています。都会に出るよりも地元で仕事をしているほうが、趣味をおおいに楽しめるなと感じています。



農家のしごと：小野貴之センパイ



最上町の富沢小学校、最上中学校、北村山高校、仙台大学の体育学部に進学しました。

卒業した後は、NGOの活動に参加してタイへ行き、親と一緒に暮らせない子どもたちの支援をしていました。



トマト農家の小野さん

日本にもどってから工場で働いてお金を貯めて、タイからトルコへ一人で電車とバスを乗り継いだ旅もしました。これは観光旅行ではなく車内で寝泊まりする旅でしたが、いろいろな人と出会ってたくさんの刺激を受け、寝台列車からすばらしい景色をながめているうちに、農業をやりたいと思うようになりました。

本格的に農業をやるために、山梨県の農業の会社で学んでから、地元の最上町に戻って農業をはじめました。

いまは、トマトを栽培して東京や関西に売っていますし、トマトを使ったジュースや加工品も作りマルシェでお客さんに販売しています。

これからは、トマトだけではなく一年中農業にとりくめるような作物の栽培に挑戦し、わたしと同じように農業をやりたいという人といっしょに会社を作ることを目標にしています。

「NGO」って？

お金をもうけることを目的とせず活動する組織のひとつで、とくに国際的な活動をおこなう組織のことをいいます。

それに、またお金をためて外国に旅に出て、たくさんの景色や人との出会いをしたいなとも思っています。

何よりも楽しいことは、トマトが嫌いな人でも「小野さんのトマトは食べられる」とか「はじめて食べて、トマトが好きになりました」という声がもらえることです。

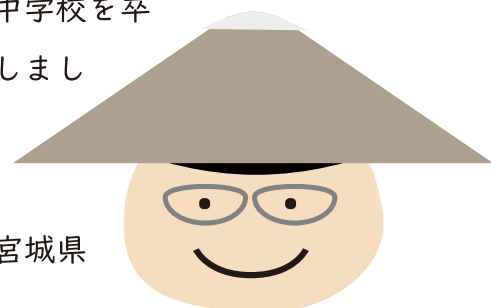
自然が好きなので、農業の仕事を通して、最上町のすごくきれいな夕焼けや四季の移ろいを感じる事ができるのも楽しいことですね。

観光のしごと：三瓶 勇センパイ



観光業の三瓶さん

金山町生まれで、地元の小学校と中学校を卒業した後、新庄神室産業高校に進学しました。そのころまでは建築を学んで、家を建てる仕事がしたいと思っていましたが、陸上自衛隊に入隊して、宮城県と東根市にいました。



最上川の舟下りで多くの観光客のかたに最上川の自然をあげわっていただく仕事、観光業をしています。何かを作って売る仕事ではなく、お客さまへのガイドや会話、歌を楽しんでいただく、サービスを売る仕事です。

船頭の仕事をしていますが、舟を安全に運転する船長であり、お客さまに近くの自然や歴史などを案内するガイドさんでもあります。そのほかに舟の整備などさまざまありますが、とても楽しい仕事ですよ。

仕事って何のためにするの？といえば、それは自分のためなんだと思います。はじめは趣味や好きなことをするためにお金が必要で、そのために働くというスタートですが、結婚して家族ができたなら、こんどは家族のために働くというふうになっていきます。

仕事に感じるやりがいや楽しさも、少しずつ変わっていくと思いますので、はじめは自分が

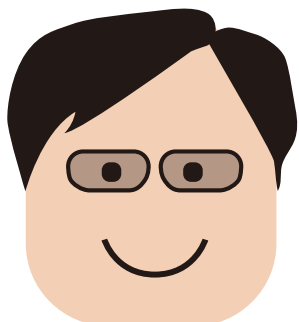


最上川の舟下り

やりたいことをかなえるために働くということでもいいと思います。

都会は働くところも遊ぶところもたくさんあって楽しいですが、一人ぐらしはぜんぶ自分でやらなければいけないのでとても大変ですよ。地元で家族と一緒にのんびり暮らすのがわたしにはあっているように思います。

介護のしごと：遠藤修二センパイ



東京都狛江市の小学校と中学校に通い、大学生のころは北海道で過ごしました。

新庄は母の実家があり、おじいちゃんとおばあちゃんがくらしていましたので、幼いころから新庄に遊びに来ていて、新庄のジジとババが大好きでした。



介護福祉士の遠藤さん

新庄では、おいしいものをたくさん食べさせてくれましたし、新庄まつりも大好きでした。子どものころには山車を引くのが夢でしたが、当時はほかのところから来た人は引かせてもらえませんでしたので、おとなになって新庄に住むようになってから思うぞんぶんにまつりを楽しんでいます。

新庄や最上地域は自然が豊かで温泉もあります。わたしは東京の生まれですが、都会のごみごみしたところは苦手なんです。なぜ東京から新庄に来たかといえば、ごみごみしたところがきれいということと、大好きなおじいちゃん、おばあちゃんと暮らすためでした。

老人ホーム新寿荘での仕事を始めて23年がたちます。

介護の仕事は、お年よりが歩くための手助けや、食事やトイレの手助けをして、安全に暮らすためにサポートをすることです。認知症になって、ご家族といっしょに暮らすことがおぼろしくなってしまったお年よりによりそい、支えるのがわたしたちの仕事です。

わたしの奥さんも介護の仕事をしているので、土よう日や日よう日でも仕事に行くことがあります。そこで我が家では、男だから仕事、女だから家事ときめるのではなく、できることは協力して支えあいながら、おたがいに介護の仕事にがんばっています。ご飯づくりもそうじや洗濯も買い物も、なんでもやりますよ。

お年よりはみんな勇者なんです。わたしもみなさんも今があるのは、お年よりが若いころに一生けんめいに働いて社会を支え、わたしたちを育ててくれたおかげなんです。

だから、病気が進んで、いろいろなことがお年より一人でできなくなってしまったとしても、こんどは育ててもらった私たちが支える番なんです。それが福祉という社会的サービスであり、介護の仕事、役割だと思っています。

にんちしょう 「認知症」って？

お年よりが、年齢が進むことによって、生活にかかわるさまざまなことができなくなったり、以前わかっていたことがわからなくなってきたりする病気のことをいいます。

質問コーナー



Q 仕事をしていてどんな時に楽しいと感じますか？
やっていたよかったと思うのは、どんな時ですか？

A お客様から「良かったよ」とか「楽しかった」、「また来たいなあ」と言っていただけでいい時です。
充実感ややりがいを感じられるのがうれしいです。



A お年寄りやご家族から「この施設でよかった、あなたでよかった」と言ってもらえた時に、この仕事をしていてよかったなどやりがいがこみ上げてきます。



Q 「働く」ことをはじめて考えたのはいつごろですか？

A おとなになって結婚して家族ができてから「働く」ことへ責任を感じるようになりました。また、楽しく仕事をやりたいと思うようになりました。



A 小さいころから、大工さんとか消防士などになりたい職業はいろいろありました。いろんな人の話を聞いてやりたい仕事をどんどん変えてみてもよいと思います。



Q この仕事に就いたきっかけは何ですか？

A 前に働いていた会社が火事にあったのをきっかけに今の会社にうつりました。人生には思いもしないことがきっかけとなることもあります。



A 外国を旅して自然のすばらしさにふれたことがきっかけです。最上にもすばらしい自然があるし、農業は、そのすばらしさにかこまれてできる仕事ですよ。



Q 仕事で辛かったことは何ですか？

A 製造の仕事は、ほかの人と手順を分担しておこないます。しなければいけない量を時間通りにきちんこなすことが大切なので、それが大変ですね。





Q どうやってつらいことを乗り越えていますか？

A

釣りが好きなので海へ行きます。思い切り楽しんで心のつかれをリセットします。勉強でつかれたら、少し好きなことをしてから、またがんばるのがいいのでは。



Q 仕事の他にうちで必ずしてることはありますか？

A

わたしのうちでは、男でもごはんのしたくやせんたくもします。これからの時代では、男の人でも家事ができるようになってきているのがよいと思います。



センパイからのメッセージ



「この仕事がしたい」と思うまでには、何があるきっかけになるかわかりません。

今はそのきっかけになるようなことは何でもやってみてほしいと思います。学校に行ってお勉強して、友達とたくさん遊んで、色々なけいけんをしてほしいと思います。それが将来の仕事にきっとつながります。今をせいっぱい楽しんでください。

人前で歌うのはきんちょうで汗が出て大変でした。でもこの仕事を続けてみて、やがてなれて、今では大好きな仕事になりました。

みなさんも、この仕事だと決めたら、つらいことがあってもあきらめないで、少し続けてみてください。かならず自分の成長につながります。



つとめていた会社が火事になり、その時はとてもピンチでした。でもそれが今の仕事にめぐりあうチャンスになったのです。

どんなこともポジティブに考えたほうがよいと思います。どんどんチャレンジしてみてください。

ぼくは、たくさんの国に行ってたくさんの人と会ったことで、かけがえのないけいけんができたと思っています。

みなさんも、知らないだれかと話すことや、行ったことがない色々な場所に行くチャンスがあったら、ぜひ参加してください。かならず、よいけいけんになります。



みなさんの一番のお手本はみなさんの両親です。何でも相談してみてください。また、インターネットを通して世界とつながっていたり、地元のセンパイから話を聞いたり、情報を得やすい時代になってきています。興味のあることや、やりたいと思うことはとことん調べてみてください。



フォーラム2回目

ITのしごと：沼澤聡子センパイ

ITの技術を使って職場の課題を改善する仕事で、パソコンの修理や販売、インターネット接続のサポート、ソフトの提供、ホームページの作成や情報発信のお手伝い、パソコンのネットワークを組んだり、指導やコンサルティングなどをしています。



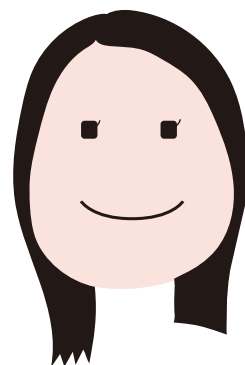
IT会社の沼澤さん

新庄まつりの期間は、山車パレードの様子をインターネット配信したり、山車の位置が分かる情報サービスも行っています。

会社は父が平成8年に立ち上げたのですが、私はちがう会社に就職をして働いていました。まだまだ社会人としても一人前になっていない23歳の時、父が病気になってしまい、新庄に戻って急に会社を継ぐことになったのですが、その時は何もわからずほんとうに大変でした。

私にとって働くことはなにかと考えると、自分の身につけた知識やスキルで、お客様の問題を解決して喜んでもらうこと、良かったと言われること、そのためにもっと勉強してもっと知識を身につけようと思う、この繰り返しなんだと思います。

仕事とは誰かの役に立つことだと思っています。情報の分野でお客様や地域の役に立つことを目標に頑張っています。



作業療法士のしごと：三原裕子センパイ



作業療法士の三原さん

作業療法士は、病気やけがをした方の治療の一環として行う作業をサポートして、地域みんなが健康で暮らせるようなお手伝いをする仕事です。

病院や高齢者の施設で、病気やけがで悪くなったところを直すとかできなくなってしまったことがまたできるようにしていくための訓練を、患者さんと一緒に行っていきます。

趣味の活動、体操、季節の活動で心や体の回復や治療だけでなく、生活に便利な道具を探したり、家の中で動きやすいように工夫して環境を整えたり、利用のお手伝いもします。

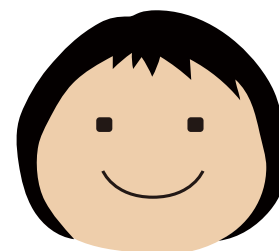
新庄出身で、この仕事に就こうと思ったのは高校の時です。仙台に進学して地元を離れていて、就職するにあたって地元に戻るか考えていました。

作業療法士は人と接する仕事です。人は必ず誰かのお世話にならなければいけない、それならば自分の知っている人がたくさんいるふるさとお世話したりされたり、仕事ができたらいいなと思い地元に戻ってきました。

それに、わたしは小さいころから新庄まつりが大好きで、子どもの時は山車を引き、中学生になったら花もらいをやっていました。

高校生の時は学校が休みではなかったので参加できませんでしたが、大人になってからは家族でこどもといっしょに毎年のように新庄まつりに参加しています。

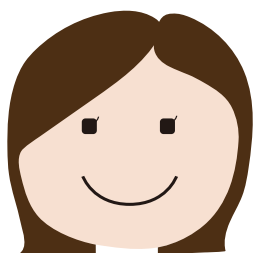
この新庄まつりがあるからふるさとに帰ってきたと言ってもいいかもしれません。



さぎょうりょうほうし 「作業療法士」って？

病気やけがで体の動きが悪くなってしまった人の治療のために訓練（リハビリ）をしてくれる人のことを言います。

薬剤師のしごと：星 利香センパイ



薬剤師という仕事には、白衣を着ているイメージがあるかもしれませんが、わたしはふだんから白衣を着ていません。それは、いつもは目立たないけれど、縁の下の力持ちでみ



薬剤師の星さん

んなの健康を支えている職業だと考えているからです。

病院で患者にどんな薬を出すかを決めるのはお医者さんですが、それについてお医者さんに意見が言えるのは薬剤師だけなのです。薬剤師は、お医者さんと協力して医療の安全を守るために大切な仕事です。

仙台にある東北薬科大学を卒業して薬剤師になったのですが、仙台は都会で便利な暮らしに慣れてしまうと地元に戻るのがいやになってしまい、卒業後は戻ってきませんでした。

でも、父の体の具合が悪くなったのがきっかけで、新庄に帰ることにしました。

仕事は調剤薬局で、患者さんの家に残薬がどのくらいあるかや、きちんと服薬できていない場合にどうするかを支援するなど、その人の生活に合わせて支援する在宅医療の取り組みも行っています。

また、地域包括ケアという仕組みでは、中学校区ごとにチームを組んでケア会議を開くなど、地域の住民の健康を見守っていこうという連携も始まっています。人と人とのつながりで地域を元気にしていこうという考えですね。

やくざいし 「薬剤師」って？

病気やけが、からだの不調を直すために飲む薬について、種類や量を確認しながら供給する仕事です。

調剤薬局、ドラッグストア、製薬会社や食品会社など、同じ薬剤師の資格を持っていてもいろいろな働き方があります。国家資格を取得してできる仕事のなかでいちばん働き方が多いのは薬剤師かもしれません。

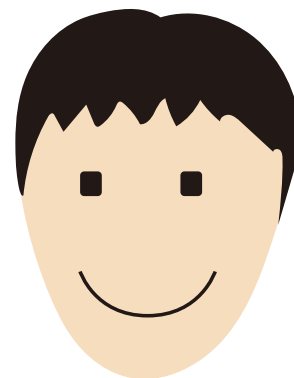
教師のしごと：中嶋恭平センパイ



中学校教師の中嶋さん

学校の先生になりたかったので、教員免許を取るために大学に進学しようと東京に出ました。

大学に入ってからもだちに「山形は北海道の下だよな。」とか「北海道と青森の間？」と言われ、山形の場所は知られていないんだと感じました。



米沢牛やサクランボなど、知られているものの名前はよく聞きましたが、「どれも新庄最上地域のものじゃない」というくやしい思いを感じました。

でもよく考えてみると、自分自身も地元のことをよく知らなかったことに気が付いて、地元に戻った時には山形県内のいろいろなところをめぐってみて、それが地元を知るきっかけになったと思います。教員になるための試験には4回目の挑戦で合格し、ようやく先生になりました。今は、子どもたちと地域の良さや魅力、課題についても一緒に考えていきたいと思っています。

ここはいなかだから何もなくて、都会に出たほうが良いという話を耳にすることがありますが、地域をよく見ていくと良いところはたくさんあります。そういう良いところを一つ一つ、子どもたちが自分自身で気づいて発見できるようになってほしいと思っています。



仕事や働くということは、人生のなかの一つです。

家族とすごす時間、友だちと遊ぶ時間、自分が一人で趣味を楽しむ時間と同じように仕事の時間がありますが、どれにいちばん自分の力を注いで生きていくかで人生が大きく変わってくると思います。

それは親や先生、まわりの人たちが決めるものではなく、自分で見つけていかなければいけないことです。自分の好きなことやがんばれることを見つけたら、それに真剣に向き合って一生けんめいやることがとても大切だと思います。

デザインのしごと：吉野敏充センパイ

子どものころは、一人で絵をかいたり物を作るのが好きな子どもでした。学校の勉強はあまりよい成績ではなかったのですが、絵をほめられたのがとてもうれしくて、大きくなり、就職して働こうと思ったときには、デザインという仕事があるらしいと知り、高校卒業後はデザインを学ぼうと考えたのは、そんなこどものころの経験からだと思います。



デザイナーの吉野さん

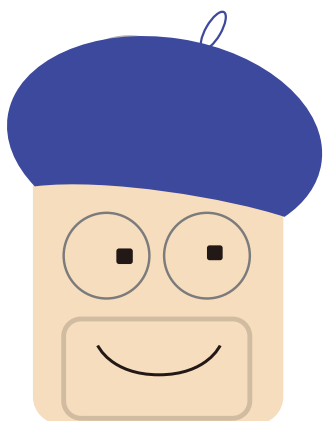
東京の専門学校に入って勉強してから会社に就職して、商品のパッケージデザインの仕事をしていました。でもわたしは農家の一人っ子だし、いつか地元には戻らないといけないなと考えていましたし、やがて地元に戻りたいという気持ちになり、31歳の時に地元に戻ってきました。

戻った当時、最上ではデザインの仕事はないだろうと思い、しばらく父と一緒に農業の仕事をしていたのですが、その農業でつながった人を中心に少しずつデザインの仕事をたのまれるようになり、今は主にデザインの仕事をしています。

この仕事は個人でやっているの自由なのですが、会社から給料をもらえるわけではありません。また仕事がある時はお金が入ってきても、仕事が無い時は入ってこないの、大変な面もあります。働くということは難しいと思いますが、わたしは好きなことや楽しいことをやって、それで別の誰かが喜んでくれてお金を払ってくれる、そういうことを続けていけたら、働くってことも楽しいと思えるんじゃないかと考えています。

いなかには買い物する場所がないとか、ともだちと交流する場所がないと聞きましたので、作り手と買い手が気軽に触れ合えてつながりのある買い物ができ、ここに残したい風景や出会いを作りたいと思って、キトキトマルシェというイベントを始めました。

そんなふうに常に挑戦していけば、自分自身も成長していけますし、より仕事が楽しくなるのではないかと感じています。



キトキトマルシェの様子

質問コーナー



Q 今の仕事で大変なことは何ですか？

A 生徒とよい関係をきづくまでがむずかしいです。おたがいに話が合えばそれだけ楽しくうれしいですね。大変さとやりがいは同じことなんだと思います。



A 薬剤師は、人と人との間に入ってつなぐ役目なのですが、人への伝え方はむずかしいですね。ふだんから伝え方に気をつけようと思っています。



A わたしも人を相手にしている仕事で、伝え方や表現にはむずかしさを感じます。利用者さんやご家族のかたによりよい伝え方をと、いつも考えています。



A 会社を経営することでは、お金のやりくりがいちばん大変ですね。また、ITは変化がはげしい仕事なので、いつも学んでいくことが大切で、それも大変です。



Q 学校の先生にはどんな人が向いていますか？
わかりやすく教えるために何に気を付けていますか？

A 学ぶことが好きな人が向いていると思います。教えるには、まずは自分がわかっていないといけません。学ぶことが好きなこと、これが一番大事だと思います。



Q この仕事に就くまで大変だったこと、辛かったことは何ですか？

A なるまでの苦労とかはないのですが、なってからは経験をつんでいる間、学んでいる時は大変だと思うことはたくさんありました。



A 作業療法士になるための専門学校で、わからなくて泣きながらがんばったことがあります。そんな時はつらかったですが、よい経験になったと思っています。



A 教員採用試験に合格するために、仕事が終わってから毎日4時間くらい勉強しました。とても大変で、何度も心がおれそうになりました。





Q 働いていて達成感を感じる時はどんな時ですか？

A

患者さんとかかわるときに目標を立てます。それがかなって患者さんやご家族から感謝された時などには、この仕事をしていてよかったと感じます。



A

わたしは認知症のお年よりのことが好きなんです。そんなお年よりがちょっと変な行動をしたとしても、お話しをきいて、そのわけや考えがわかってあげられた時には、この仕事の意味が感じられて、とてもやりがいを感じますね。



センパイからのメッセージ



いまはインターネットがあり、どこにいても仕事はできると思います。ぼくは新庄にいたいと思っていますし、どこで仕事をしてどこで暮らすかは、自分で決めることなんだと感じます。どこにいるかも何をやるかも自分で選んで、まわりの人と楽しく幸せに暮らせたらいいなと思います。

大切な休みの日に、センパイの話を聞きにここに来てくれたことがとてもうれしく、すごいことだと感じます。じぶんの未来のために、とても有意義で役だつと思います。

これからも自分に自信をもってがんばってください。



最上地域の中でくらししていくには、たくさんの進路や方法があるし、よいところもあるのに、伝えきれていないのかなと思います。

みなさんも、もっと多くのセンパイの話を聞いたりすることでとても勉強になりますから、チャンスがあれば、また参加して、自分の未来や仕事について考えていってほしいなと思います。

大人になれば、人とつながって生きていかなければいけなくなります。勉強も大切ですが、ともだちと話したり遊んだりすることが「人と向き合う練習」になり、それがいちばん大事なんです。

小学生でも中学生でもせいっぱいそれをやってみることで、その時にしかできないとても大切な経験になると思います。



いやだなと思うことも、苦手なことも、何かその先にいいことがあるかもしれないと信じて行動してみると、かならず次につながっていくと思います。好きなことを見つけたら、どうぞ一生けんめいにがんばってみてください。



みんな真剣！



はじめてのあい



アルハ



体操もしました



ゲームみたい！



さつ

バム



センパイとタッチ



アンケートシール



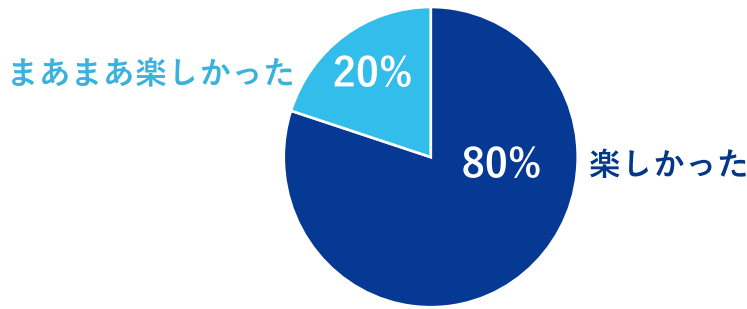
なんだ?



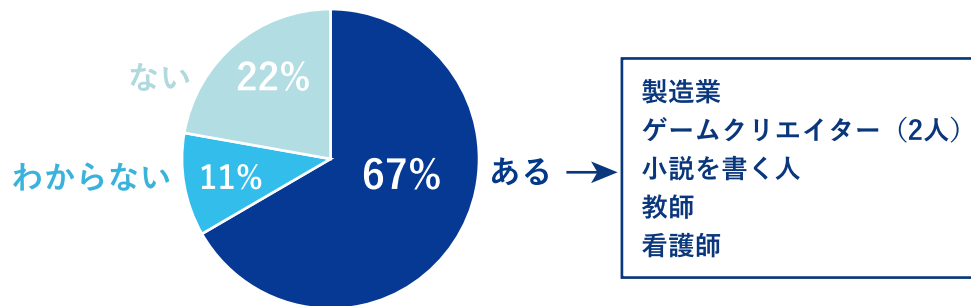
センパイに拍手

アンケート：フォーラム 1回目

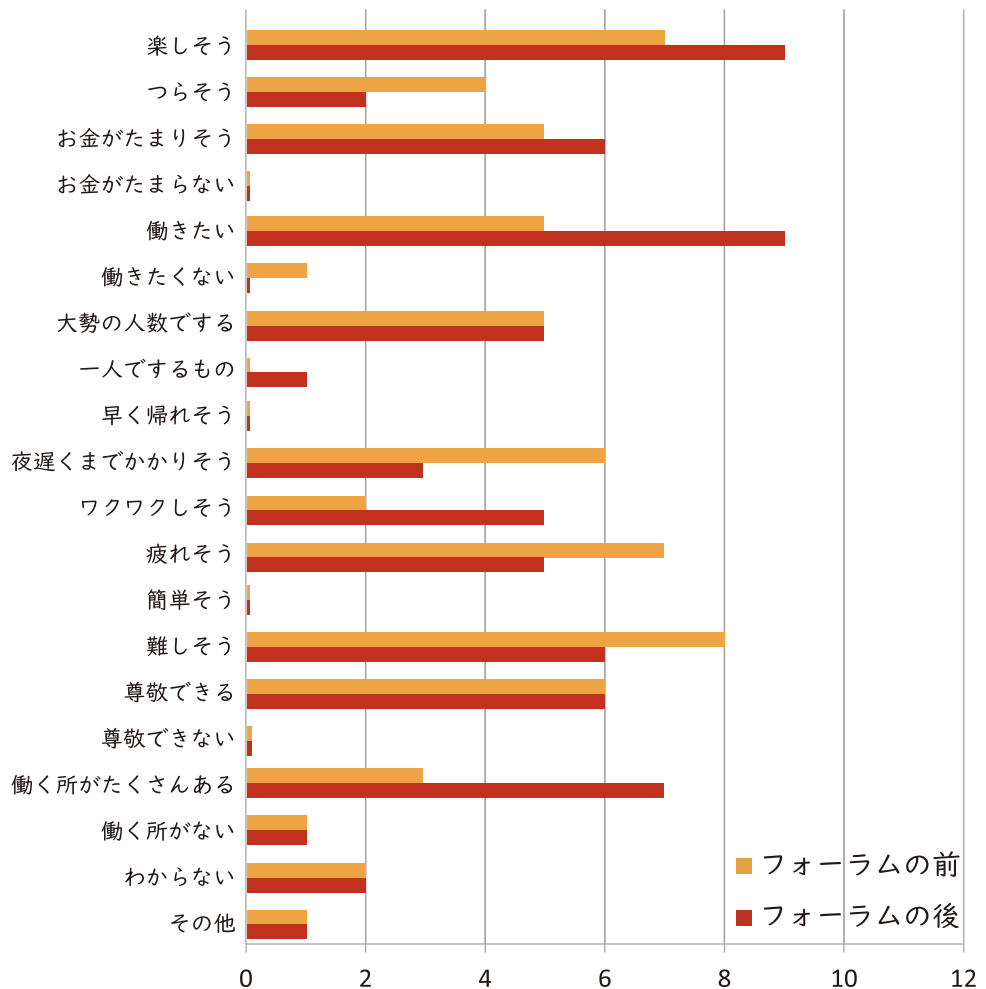
今日の「働かってナンだ？」に参加してどう思いましたか？



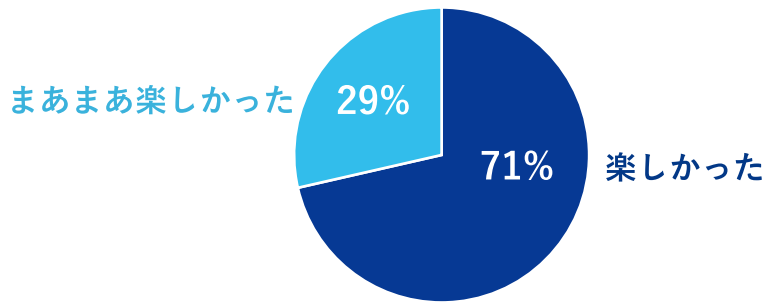
将来、つきたい「仕事」はありますか？



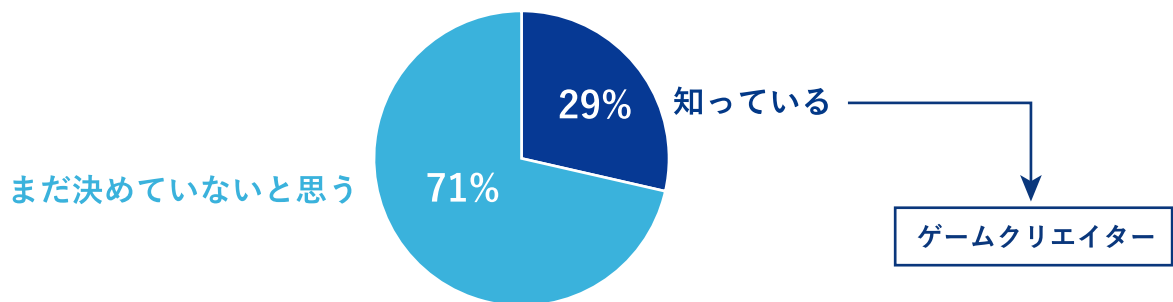
「働く」ことについてどう思いますか？ (複数回答)



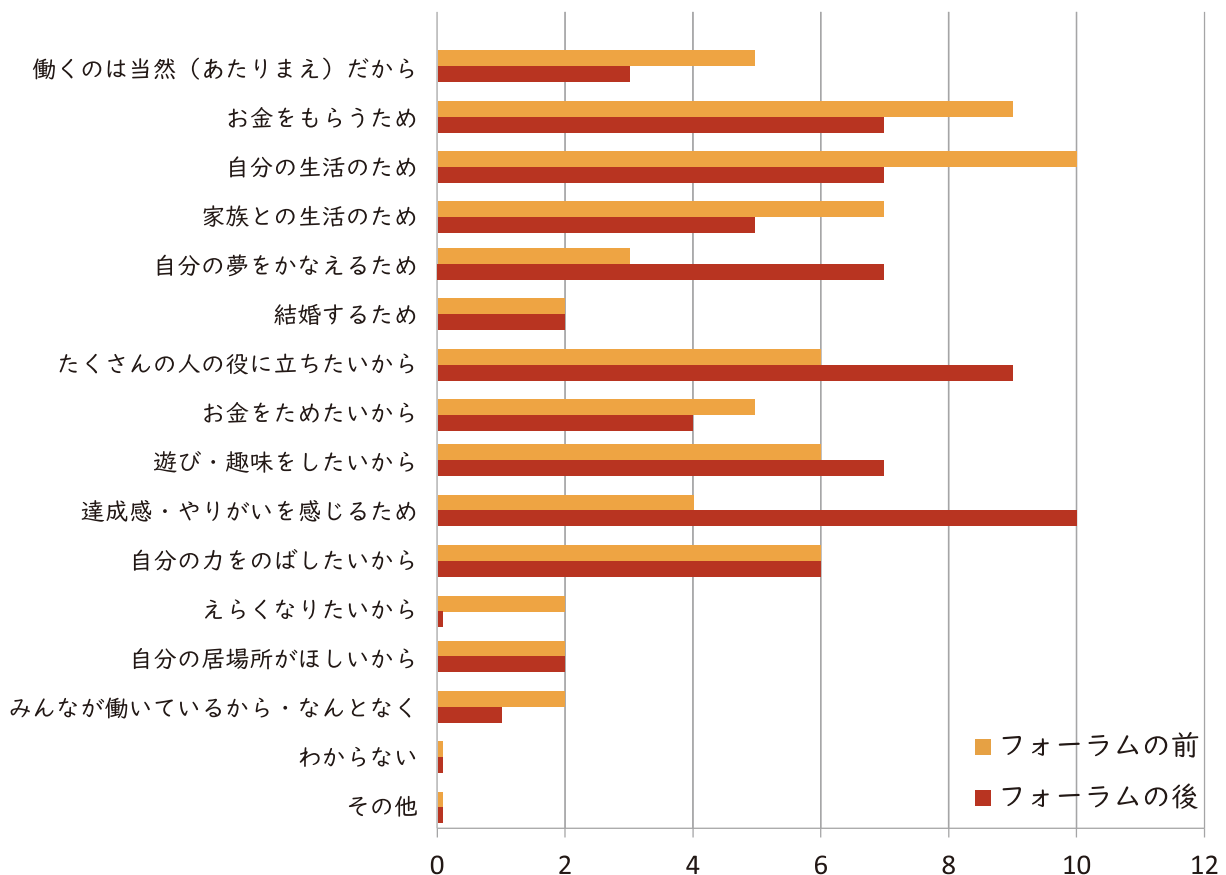
今日の「働かってナンだ？」に参加してどう思いましたか？



将来、お子さんのつきたい「仕事」を知っていますか？

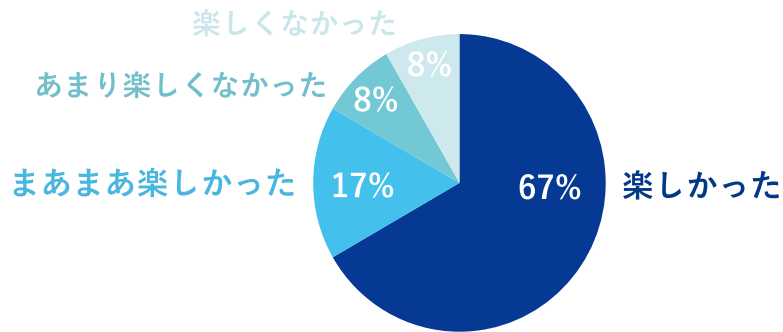


なぜ「働く」と思いますか？（複数回答）

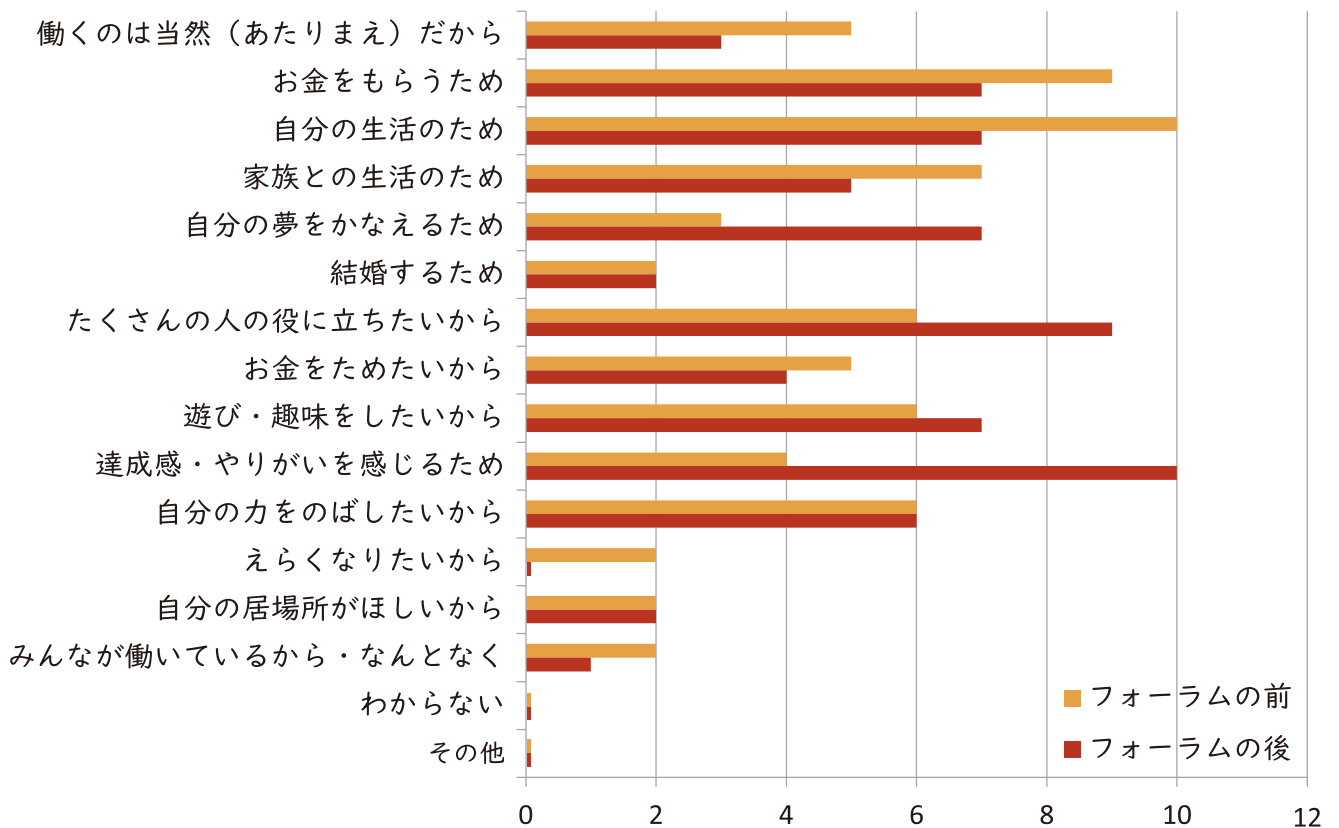


アンケート：フォーラム 2回目

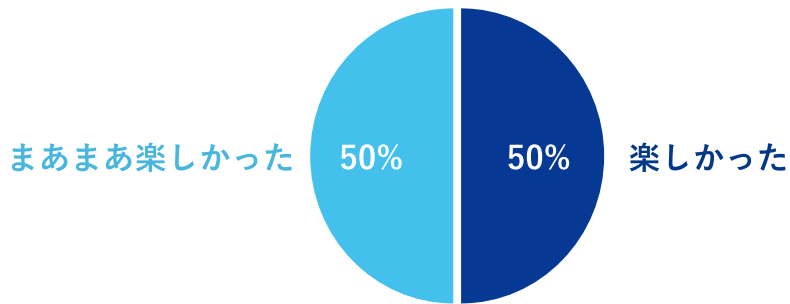
今日の「働くってなんだ？（第2回目）」に参加してどう思いましたか？



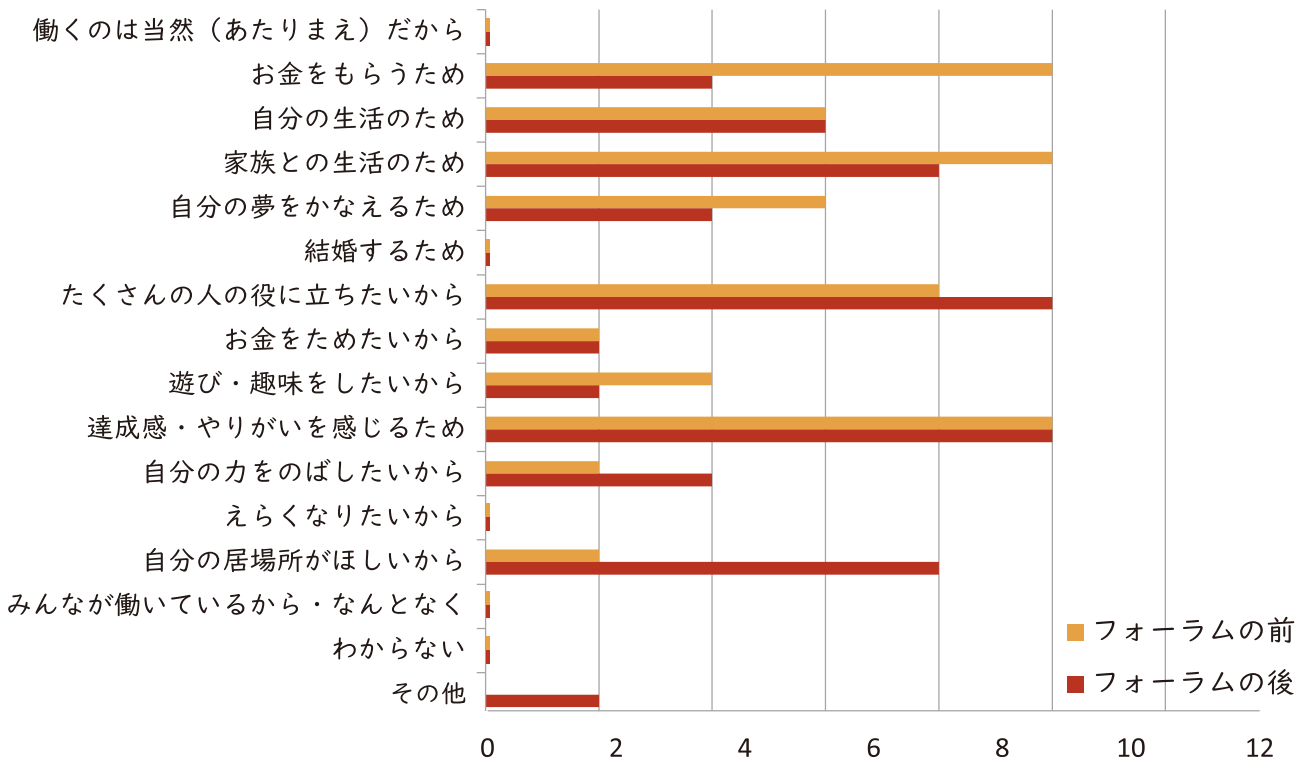
なぜ「働く」と思いますか？（複数回答）



今日の「働くってナンだ？（第2回目）」に参加してどう思いましたか？



なぜ「働く」と思いますか？（複数回答）



フォーラムに参加しての感想

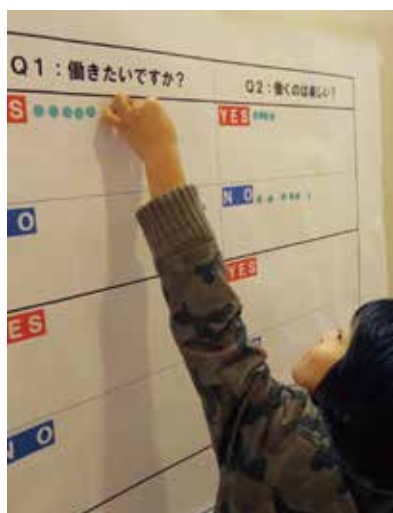
11月25日(日)第1回フォーラム分 <主な感想を抜粋>

- ・先輩達の仕事の説明が分かりやすかった
- ・仕事のことがいっぱい分かったのが楽しかった
- ・家族を養って子育てもできる職業につきたいと思いました
- ・働くことは、いろんな意味があるのだな。いろんなことに挑戦して自分にあった仕事を見つけない
- ・将来ゲームクリエイターになりたい。そのために今は勉強を頑張って、一步一步夢に向かって進んでいきます



12月9日(日)第2回フォーラム分 <主な感想を抜粋>

- ・人と人の関係は大切だと気づいた
- ・生きていく上で仕事ということの大切さを知ることができた
- ・やりがいを感じながらみんな楽しく仕事をやっていて、仕事をやりたいからやっているんだなあと思わされたと思いました
- ・仕事をするまではすごく大変だけど、やったら達成感があるんだなと思いました
- ・自分の将来について考えることができました



発刊によせて

当法人では、故郷を知り、そこには様々な仕事があることを知ってもらいたいと、「もがみ 仕事の魅力ガイドⅠ・Ⅱ」(2015・2017)を発刊しました。

次のステップとして、進路を考え始める前の子どもたちに「働く」ことを考える機会をもっと提供しなければと考え、子どもたちに向けて、いきいきと働く魅力的なセンパイに「働く」ことについて語ってもらうことにしました。

そこからふるさとと自分の将来を想像し、新たな夢や希望を創造してほしいとの願いを込めたフォーラムです。

参加した子どもたちは、地域産業の担い手や専門性を身につけ郷里に戻り活躍している先輩ゲスト『10人十色』のカッコいいおとなとの出会いの機会を得て働く意義や広い視野で身近な故郷を知ることになりました。

仕事に対する意識付けや豊かな地域観・職業観が育まれ、社会の一員としての自覚を芽生えさせるとい

目標が、多少なりとも実現できたのではないかと考えています。

管内の小中学校からは、対象学年の子どもたちに企業紹介や特定職業体験とは異なる機会の提供を望む声が強く寄せられました。

参加できなかった子どもたちやおとなにも、新鮮な感動に満ちたフォーラムの雰囲気をお届けたいと考え冊子を発刊します。実施にあたり実行委員会には山形県最上総合支庁、最上教育事務所、新庄商工会議所、地域社会デザイン研究所に加わっていただきました。

この事業は、イオン(株)様のご寄付を活用した平成30年度やまがた社会貢献基金協働助成事業により実施しました。

関係各位に御礼を申し上げます。

平成31年2月

特定非営利活動法人 NPO もがみ

理事長 沼野 慈

発行・編集	特定非営利活動法人 NPO もがみ 〒996-0091 山形県新庄市十日町 6000-1 新庄市エコロジーガーデン内
編集責任者	沼野 慈
発行日	2019年2月28日